

京都丹波 まなViva!

「京都丹波 まなViva!」は、学校と先生を応援する南丹教育局の学びのニュースです。

ICT活用 進んでいますか？

GIGAスクール構想

2023年度までに1人1台端末の使用を想定して進められてきましたが、感染症拡大による休校の影響で「教育をとめない」声が挙がり、大幅に前倒し、急ピッチで進んだGIGAスクール構想です。各校での活用はいかがですか。先生によっては苦手を感じることもあるかもしれませんが、これから生きる子ども達にとっては必需品、よりよく生きる手段として扱えるように支援していきたいものです。ここでは、活用の様子や情報の共有から先生方の実践に役立てていただければと思います。

先生の指導法を拡張する！

どんな場面で使われているの？

Step 1



児童のノートや活動の共有



これまでの先生の指導にプラス

視覚や聴覚にうったえるインプットや時間短縮にも役立ちます。また、ノートの共有などで子ども達の意見を集約したり発表させたりするような使い方も効果的です。これらには一斉指導だけでなく、1人1台端末だからこそできる使い方もあります。様々な場面で取り入れていただきたいと思います。



課題提示や話し合い活動

あれば便利！をちょっと紹介

タブレットのスタンド

体育など実技の撮影や、定点記録、先生の手元を映して見せるなど用途は多様です。学校にある三脚につける上の部分だけでも購入できます。ただし、転倒や子ども達との接触など安全面での配慮が必要です。



クリップの広角レンズ

近い距離でも広く撮影できます。撮影距離が短く、教室全体が画面に収まらない時、グループワークの話し合いで音声を拾うために近づきすぎてもみんなが映らない時など、手軽に撮影が切り替えられます。

子どもたちの創造性を育てる

タブレットを思考や問題解決、その表現のためのツールとして使います。
ここで指導者が意識したいのが

Creativity

相手に伝える英語の
スピーチになってる？

子どもたちの創造性を育て、
新学習指導要領で求められる
「生きて働く」「未知の状況に対応できる」…
そんな力を身につけさせたいものです。

デジタルとアナログ、
それぞれの良さを活かして説明を組み立てよう



クリエイティブな

授業の様子をちょっと紹介

京丹波町立和知中学校 1年理科「動物の特徴と分類」 今井 俊彦教諭



課題提示

「いろいろな脊椎動物を観点や基準にもとづいて分類し、その根拠を説明する」

【導入 5分】

本時で何をねらうのか、本時の終わりに何を求めているか
明確・簡潔に指示。

「動物の分類をおこない、
その根拠を説得力ある説明にして動画に残す」

評価のABの基準を生徒に事前に提示

展開 1

「10種類の動物を5つの特徴に分ける」

【展開 40分】

教師から全体への追加指示はなし。
机間指導し、個別に支援。早くできた生徒には別視点を与え、多面的な見方を示唆。
教師は支援・促進者として動く。

展開 2

分類した根拠を説明するために構成を考え、ペアで内容を吟味しながら動画撮影。
動画は全体交流のためだけでなく個人の成果物として提出。

「撮影すること」が主目的ではなく、
思考の再構成を意図して設定

【まとめ ふりかえり 5分】

本時のねらいへ収束



※授業の主体者が誰か、本時のねらいは何かが明確で生徒の思考がフル回転していることが伝わる授業でした。

- ☑ 子どもの学力に目立った成果が表れていない
- ☑ 資料を検索すると簡単に結果が出るため、問題解決能力が落ちる
- ☑ 子どもの読書量が減る
- ☑ 能動的に学ぶ姿勢が失われる

ICT教育先進国で
導入当初に見られた課題

活用への配慮を！

タブレット端末は、求めればすぐ答えを返してくれる便利な道具です。計算問題、意味調べ、明日の天気や歴史・地理の暗記するような事柄。こうした答えに直結する使い方や利便性に頼った使い方は最近を生きる子どもたちはとても慣れていているといえますが、それらを「生きて働かせ」られているでしょうか。

ICTを先進的に教育に導入する国々では左のような問題点が挙がったそうです。Step2のような授業づくりも念頭に置きながら授業に取り入れ、活用していくことが大切になります。